京都・武者ケ谷遺跡

1 所在地　京都府福知山市字堀小字武者ヶ谷
2 調査期間　一九九七年（平9）五月～七月
3 発掘機関　福知山市教育委員会
4 調査担当者　永谷隆夫
5 遺跡の種類　祭祀遺構もしくは居館関連施設
6 遺跡の年代　一三世紀後半～一四世紀前半
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、福知山盆地中心部の南端に位置する。親不知山麓の北東辺段丘の小さな二つの丘陵に挟まれてできた小規模な谷を武者ヶ谷といい、一帯を武者ヶ谷遺跡と称している。「武者ヶ谷」の地名の存在がたどれるのは江戸時代までであるが、調査地の上部をはじめ周辺丘陵には多くの中世山城跡が存在し、地名の由来はそのことと関係している可能性も考えられる。

（福知山）

武者ヶ谷遺跡は、一九七二～一九七六年に断続的に調査が行なわれ、古墳時代の円墳・炉跡などを検出した。また、その下層からは、武者ヶ谷式土器と命名された縄文時代草創期の土器が出土している。

一九九七年度の調査は、高等教育機関整備支援事業グラウンド用地造成工事に伴う事前調査であった。中心となった地区（報告書ではB地区と呼称）は、過去の調査地から一五〇mほど上部の平野部にあたり、当時は休耕田であった。当初は縄文時代に関連する遺構を想定していたが、実際に確認されたのは中世の遺構のみであった。この時期の遺構は今回初めて確認されたものである。

木簡が出土した遺構は、調査区の南西部で検出した溝状遺構SD〇一である。五・二m×五・三mの範囲で検出した東西方向に伸びる三本の溝が、東部で結合し「∋」の形を取る不定形な溝状遺構で、遺構上部が削平されていると思われるが、幅（上端）約一・〇m～二・一m、深さ約一五～二八cmを測る。溝の埋土中からは木製品の他、土器・漆器・鉄製品、種子などの自然遺物が出土した。遺物のほとんどは、北側の溝からの出土である。木製品には、木簡の他に形が判別できるものとして、鳥形・毬・下駄の差歯部分・箸状木製品がある。土器には、土師器の皿（小型・中型）・瓦器椀・東播系須恵器鉢がある。鉄製品には、釘・鋏がある。なお調査区内の検出遺構は、SD〇一の他は、数個の柱穴のみである。

8　木簡の釈文・内容

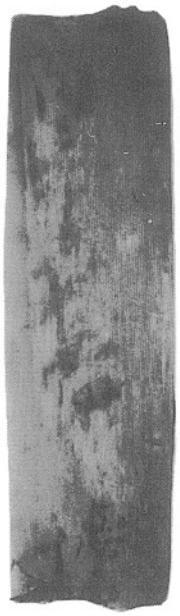
(1)　□三十□□□〔三カ〕　徳治×　　(124)×32×5　081

墨痕は比較的明瞭で、墨書は片面のみに見られる。上下両端部は欠損しているが、左右は原形を留めている。末尾の二字は年号「徳治」（一三〇六～一三〇八年）とみられるが、下半が欠損しているため、年号以外の記述であることも十分考えられる。ただ、共伴して出土した土器類は、当地域では概ね一三世紀後半～一四世紀前半の時期に比定されるものである。

9　関係文献

福知山市教育委員会『福知山市文化財調査報告書』第三六集（一九九八年）

（永谷隆夫）



木簡研究第二〇号

和田　萃

巻頭言―機器の目・人の目―
一九九七年出土の木簡
概要　平城宮跡　平城京跡(1)　平城京跡(2)　青野遺跡　藤原宮跡　酒船石遺跡　長岡宮跡　長岡京跡左京二条四坊三町　長岡京跡右京六条二坊六町　平安京跡右京三条一坊三町　平等院庭園　細工谷遺跡　大坂城跡　天満本願寺跡　堺環濠都市遺跡　東浅香山遺跡　猪名庄遺跡　屋敷町遺跡　加都遺跡　明石城武家屋敷跡　境谷遺跡　茂利宮の西遺跡　安坂・城の堀遺跡　大将軍遺跡　大脇城跡　瀬名川遺跡　明治大学記念館前遺跡　千駄ヶ谷五丁目遺跡　山崎上ノ南遺跡B地点　西原遺跡　松本城三の丸跡小柳町　松本城下町跡伊勢町　三輪田遺跡　一本柳遺跡　志羅山遺跡　三条遺跡　上高田遺跡　山田遺跡　払田柵跡　大光寺新城跡遺跡　福井城跡　金石本町遺跡　戸水大西遺跡　堅田B遺跡　七尾城下町遺跡　蛇喰A遺跡　二口五反田遺跡　清水堂F遺跡　下ノ西遺跡　中倉遺跡　大御堂廃寺　三田谷I遺跡　有福寺遺跡　高田遺跡　百間川米田遺跡　津寺遺跡　末原窯跡群（灰原上層）　萩城跡（外堀地区）　高松城跡　観音寺遺跡　上長野A遺跡　香椎B遺跡　博多遺跡群　魚屋町遺跡
一九七七年以前出土の木簡（二〇）　藤原宮跡
釈文の訂正と追加（一）　山垣遺跡　袴狭遺跡（深田地区）　袴狭遺跡
入佐川遺跡　出雲国庁跡
再び長屋王家木簡と皇親家令について　八木　充
長野特別研究集会の記録
信濃の古代と屋代遺跡群…寺内隆夫、七世紀の屋代木簡…傳田伊史、七世紀の地方木簡…鐘江宏之、七世紀の宮都木簡…鶴見泰寿、律令制の成立と木簡―七世紀の木簡をめぐって…舘野和己
書評　佐藤信著『日本古代の宮都と木簡』　仁藤敦史
新刊紹介　大庭脩編著『木簡―古代からのメッセージ―』　丸山裕美子
頒価　五五〇〇円　送料六〇〇円